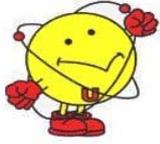


にんぎょうとうげ



発行： 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター 総務課
岡山県 苫田郡鏡野町上齋原1550番地
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502
HPアドレス <http://www.jaea.go.jp/04/zningyo/index.html>

平成29年 年頭ご挨拶



人形峠環境技術センター
所長 竹中 信吾

明けましておめでとうございます。

昨年12月21日に、人形峠環境技術センターの事業計画案である「ウランと環境研究プラットフォーム」構想を公表することができました。

1955年11月12日に、日本で初めてウラン鉱床の露頭が人形峠で発見されたことに始まり、2001年3月のウラン濃縮原型プラント運転終了までの間、当センターでは、ウラン探鉱から製錬転換及び濃縮までの、いわゆる核燃料サイクルのフロントエンドの研究開発を、地域の皆様のご理解とご協力を得て実施してきました。これらの成果は青森県六ヶ所村にある日本原燃(株)のウラン濃縮工場等に引き継がれ、日本の核燃料サイクル確立に貢献してきました。

その後は、フロントエンドの研究開発に代って、鉱

山施設の閉山措置、製錬転換施設の設備解体、ウラン濃縮施設の機器等の内部に滞留しているウラン回収及び資源再利用のための遠心機の除染・クリアランスなどのバックエンドの研究開発を進めてきました。

そして、新たな方向性として、60年超、ウランにまつわる研究開発を通じて当センターに蓄積された技術や人材を活用するとともに、大学、民間企業等にも参加して頂き、さらには、当センターの立地環境や設備を生かした、ウランと環境をテーマとした研究を共同で推進するプラットフォーム構想を企画立案し公表しました。

プラットフォーム構想では、2017年度から、ウランと環境をテーマとした研究として、以下の2つの研究から開始することを計画しています。

- ①環境研究：地表や浅い地中でウラン等がどのように移動しているのかを研究します。
- ②ウラン廃棄物工学研究：ウラン廃棄物を安全で合理的に処分するために必要な処理技術を研究します。

当センターでは、これまで約半世紀の永きにわたり、地域の皆様に温かく見守っていただきながら事業を進めてまいりました。今後とも、地域の皆様に信頼していただけるように、安全確保に最善の注意を払いながら、情報公開に努め透明性を確保しつつ、産・官・学・民の知を結集することで、世界に発信できる成果を創造してまいります。

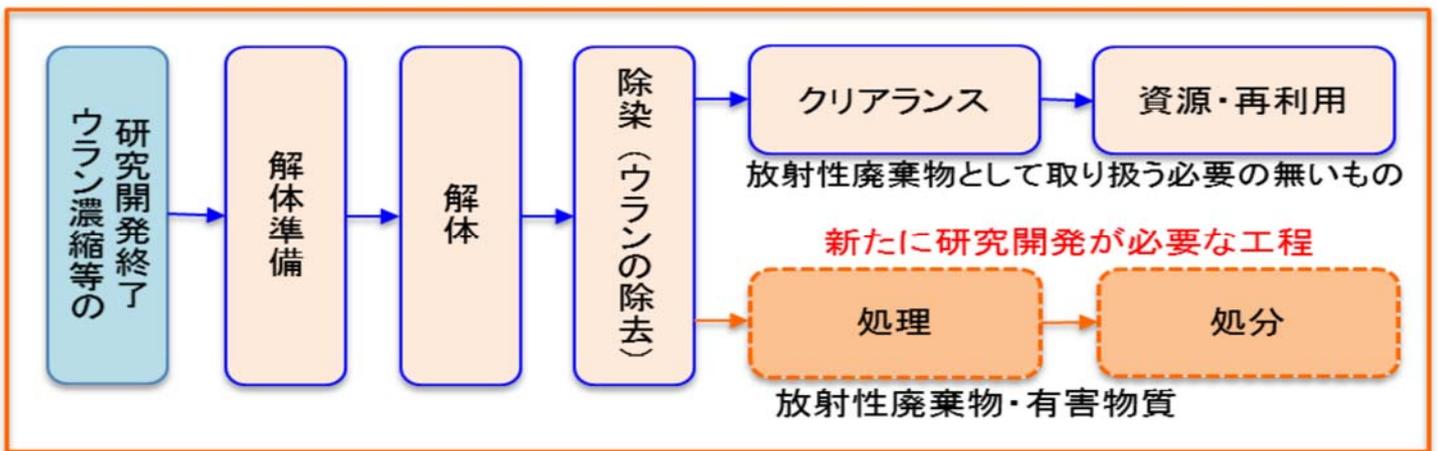
「ウランと環境研究プラットフォーム」に関心をお持ちの皆様、お気軽に人形峠環境技術センターにお問い合わせください。

シリーズ 人形峠の歴史を振り返る

～第5弾人形峠のこれから「ウランと環境研究プラットフォーム」構想～

人形峠環境技術センターは、平成13年（2001年）3月までに主たる施設は運転が終了し、現在は、施設の廃止措置のために、施設内の設備等の中に付着しているウランの除去や設備の解体等に必要の研究開発を実施しています。一方で、施設の老朽化が進んでいるため、より安全な状態にしていくために不要な設備は解体を確実に進めること、廃止措置をさらに進めるためにはウランが付着した解体物を安全に処理・処分するための研究開発が必要になっています。

このため、人形峠環境技術センターでは、平成28年12月21日、今後の事業計画案として、「ウランと環境研究プラットフォーム」構想を公表しました。この構想は、自ら行っている施設の廃止措置研究をさらに進めるとともに、研究開発を行う場として人形峠環境技術センター周辺の自然環境と研究施設を大学や民間企業等に活用していただくための仕組みです。



人形峠環境技術センターの施設の廃止措置工程

【現在想定している主な研究課題（ウランと環境をテーマとした研究）】

ウラン廃棄物の処理・処分	環境保全	ウラン有効利用・長期管理
資源として再利用できない設備等の解体物について、安全性向上のため、安全で合理的に処理・処分するための研究開発を行います。	ウランを取り扱ったウラン濃縮施設等の研究開発施設跡地の環境保全と収束方法の研究開発が必要になっています。	施設内で安全に保管しているウランを資源として有効利用する方法や長期間のより安全な保管を想定した管理方法等の研究開発が必要になっています。
まず、この研究開発から取り組みます。	将来取り組む研究テーマです	

もちろん、これらの課題に取り組むにあたっては、放射線（能）に関する新たな環境負荷が生じないことや、一般安全を含めた安全管理を徹底して行います。

そして、これらの研究開発活動を通じて、地域の活性化や雇用創出、学術・工学分野での地域、国際貢献を目指していく考えです。

「ウランと環境研究プラットフォーム」構想の推進にあたっては、これまで以上に情報を公開すること、地域の皆さまからご意見を聞く機会を設けるなど、地域住民の皆様からの信頼や事業の透明性を図りながら取り組んでいきたいと考えています。ご不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。（環境研究実証試験準備室）